

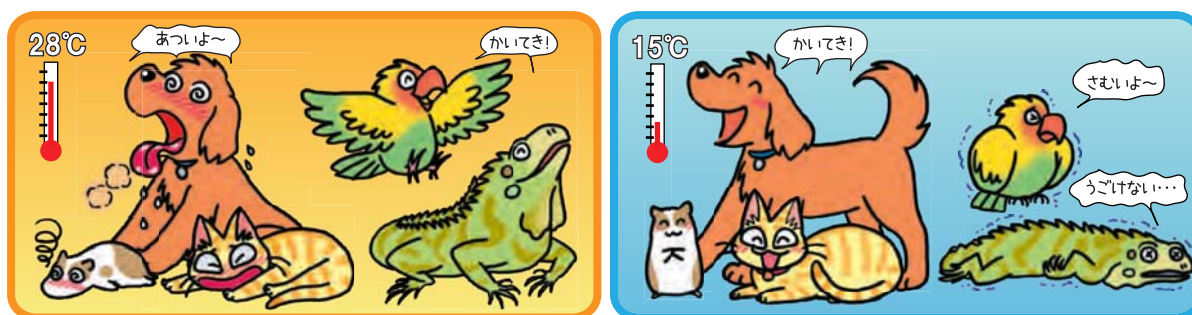
住環境

種類に応じた適切な住環境を整えましょう

ペットは種類によって、生理、生態、習性が違います。健康に飼うためには、それぞれの種類にふさわしい環境や施設を用意しなければなりません。

温湿度

人なら、暑すぎたり寒すぎたりすれば、冷暖房や衣服で調節したり、快適な場所に移動することができますが、ペットにはできません。哺乳類のほとんどは、人間のように全身から汗をかいて体温を下げるできませんから、高温の環境では熱中症になりやすく、命にかかわることも少なくありません。爬虫類には温湿度、紫外線などの環境に敏感なものが多く、種類によって、ヒーターや紫外線灯なども必要です。人が快適と思える環境がペットの種類によっては苦痛となることもありますから、それぞれの種類に適した温度と湿度の環境を整えましょう。



施設

飼養施設に必要な広さや設備もペットの種類によって異なりますから、その種類に適したものを用意しましょう。例えば、犬は歩きまわられる平面的な広さが必要ですから、短い鎖でつなぎっぱなしにしたり狭いケージに閉じ込めっぱなしにしてはいけません。猫は立体的な高さが必要ですから、キャットタワーなどで飛び乗れる場所を作らなくてはなりません。ハムスターは一日に 10km 以上走るので、安全な回し車などをケージに用意することが必要です。先の尖ったもの、不安定なもの、口にしたら危険なものなどがペットのそばにありませんか? 思わぬ事故につながるものや、破損や故障がないか、定期的に点検しましょう。ペットの数が多すぎて過密な環境も大きなストレスになりますから、飼養する場所の広さに適した数にしないでなりません。



掃除

糞尿や食べ物の残りかす、抜け毛・羽毛やその他のゴミなどの放置は、悪臭やハエの発生などで近隣の迷惑になるだけでなく、ノミや回虫などの寄生虫や病原微生物の温床となり、ペットの健康に悪影響を及ぼします。飼い主がこまめに掃除をして、不衛生にならないように気を配らなくてはなりません。住まいが汚れたからといって、ペットは文句を言うことも自分で掃除することもできません。

